

糖尿病関連の講演会・研修会のお知らせ

【県内講演会・研修】※お問合せは各主催者へお願いします。

☆2013年7月19日(金)第57回NDN(南部糖尿病ネットワーク)

場 所: 南部地区医師会 1階 小講堂 八重瀬町字友寄 891-1

時 間: 19:30~21:00 『明日からはじめるカーボカウント~1型糖尿病治療の新展開~』

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、医療科学専攻・展開医療科学講座(第一内科)
准教授 阿比留 教生 先生

申請予定: 日本糖尿病療養指導士会認定単位(2群 0.5単位)

お問合せ先: TEL 098-866-4661 (ノボディスクファーマ株式会社 協隼人)

☆2013年7月20日(土)・21日(日)第21回西日本肥満研究会

会 場: ロワジールホテル那覇 那覇市西 3-2-1

申請予定: 日本糖尿病療養指導士会認定単位(2群 1.0単位申請中)

お問合せ: 【事務局】琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)

TEL: 098-895-1147

【運営準備室】アンプロデュース株式会社 担当: 内田 〒810-0041 福岡市中央区大名 1-8-36

TEL: 092-401-5755 FAX: 050-3488-2692 E-mail: info@21wjsso.com

☆2013年8月14日(水)第1回糖尿病チーム医療フォーラム

場 所: 沖縄県医師会館「3階ホール」(南風原町字新川 218-9)

時 間: 19:00~21:00

19:15~19:20 開会挨拶

琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)教授 益崎 裕章 先生

19:20~19:50 一般講演

講演1『糖尿病専門クリニックにおけるチーム医療』 田仲医院 看護師長 許田英子 先生

講演2『糖尿病チーム医療における臨床検査技師の役割—当院での取り組みをふまえて—』 翔南病院 検査科

主任 伊禮千秋 先生 講演3『栄養相談に CGM を取り入れて —当院糖尿病チームでの取り組み—』

中頭病院 栄養部主任 金城めぐみ 先生

19:50~21:00 特別講演 『チームで取り組む糖尿病療養指導の勧め』

公益財団法人慈愛会 今村病院分院糖尿病内科副院長 鎌田 哲郎 先生

申請予定: 日本糖尿病療養指導士会認定単位(2群 0.5単位)、栄養士(第1群 1単位)、日本医師会生涯教育講座(1単位) 予定

お問合せ先: TEL 098-874-2056 FAX 098-874-2883 (株)三和化学研究所 沖縄事務所

☆2013年11月8日(金)・9(土)第51回日本糖尿病学会九州地方会・・・「演題募集中」・・・

場 所: 沖縄コンベンションセンター等(宜野湾市真志喜 4-3-1)

申請予定: 日本糖尿病療養指導士会認定単位(2群 4単位)



いのちの尊さにこたえます。

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区東上町7-1-5
http://www.lilly.co.jp

サノフィは、グローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーとして患者さんのニーズにフォーカスしています。

サノフィ株式会社 www.sanofi.co.jp




沖縄CDEJ News 第8号 2012年12月

■沖縄県糖尿病療養指導士会 ■代表者 仲里 幸康 ■広報 前川スミ子

■事務局 琉球大学医学部附属病院 第二内科 医局内

■所在地 〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

■連絡先 TEL 098-895-1147 FAX 098-895-1415 メール okinawacde@yahoo.co.jp



沖縄CDEJ News



<http://island.geocities.jp/okinawacde/>

第9号2013年6月



ホームページがリニューアルします!

沖縄県糖尿病療養指導士会会長 仲里幸康

この度、沖縄県糖尿病療養指導士会ホームページの設置に至り、準備に携わった役員、事務局の皆様には、心より深く感謝申し上げます。

沖縄県糖尿病療養指導士会は平成14年に設立して、11年目を迎えることになりました。11年を振り返ってみますと、糖尿病療養指導士単位取得のための、研修・講習会は県外にて開催されることが多く、経済的負担になり受講困難な状況にありました。しかし世話人会および糖尿病専門医の協力で、県内で研修・講習会が開催できるようになり、現在、沖縄県の日本糖尿病療養指導士取得者は228名と増えてきました。

沖縄県糖尿病療養指導士会の具体的活動としては、スキルアップ研修として、県内外からの医師、コメディカルの講師をお招きして、年間3回~4回の講習会を開催しています。また沖縄県糖尿病療養指導士会のニュース発行、ウォクラリー大会への参加協力、一般市民への糖尿病・生活習慣病の啓蒙活動等の一環として、糖尿病週間などに積極的に参加しております。

今後は後輩の育成と沖縄県の健康長寿に向けて、沖縄県糖尿病対策推進会議、近々設立予定の沖縄県地域糖尿病療養指導士会等の団体への協力支援を考えています。今後も地域に密着した沖縄県糖尿病療養指導士の活躍を期待しています。

沖縄県糖尿病療養指導士の皆さんが活躍していくために、このホームページを情報基盤としてフルに活用して頂きたいと願っています。皆様のご協力を宜しくお願い致します。新しいホームページはこちら→ <http://www.okinawacdej.com/>



CDEJ とは

日本糖尿病療養指導士(Certified Diabetes Educator of Japan)の略語で糖尿病患者の療養指導に従事するコメディカルスタッフ(看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、准看護師、栄養士ら)に与えられている資格です。CDEJは、糖尿病治療にもっとも大切な自己管理(療養)を患者に指導する医療スタッフです。高度で幅広い専門知識をもち、患者の糖尿病セルフケアを支援します。

現在、沖縄県内には228名のスタッフが活躍しております。

沖縄県糖尿病療養指導士事務局

栄養士だより



琉球大学医学部附属病院
管理栄養士 山川 房江



透析にならないための食事療法

透析にならないようにするためには血糖コントロールを良好に保ち、腎臓の働き具合に合わせ、必要な食事療法を行うことです。腎症の2期までは糖尿病の食事療法を基本とした血糖コントロールを主とし、たんぱく質や塩分の制限はしません。第3期-Aになってくるとたんぱく質を標準体重当たり0.8~1.0に控える食事に制限します。たんぱく質は肉魚類だけでなく主食や野菜類の中にも含まれるためバランス良く減らします。



(手ばかり法)

たんぱく質を減らすだけで必要なエネルギー摂取ができなくなります。たんぱく質を減らす分は、炭水化物や脂質の比率を増やして補います。エネルギーの補給が十分でないと、たんぱく質が本来の目的に使われずエネルギー源になってしまいます。腎症2期までの糖尿病食事療法とは異なるため患者さんが混乱しないようしっかり指導を行います。また、この時期は塩分の多い食事も腎臓に負担となります。薄味にすること、薄味でも頻回に摂る、摂る量が多いと塩分摂取も多くなります。血清カリウム値が5.0mEq/dl以上になったら食品選択、調理方法の指導を行います。

食事療法をしっかり行っていた人ほど腎症の食事療法に戸惑うことが多くなります。食事療法は続けることができこそ意味があります。患者さんの状況に合った支援が大切です。

ステージ (病期)	総エネルギー (kcal/kg/日)	蛋白 (g/kg/日)	食塩 (g/日)	カリウム (g/日)	備考
第1期 (腎症前期)	25~30	/	制限せず	制限せず	糖尿病食を基本とし、血糖コントロールに努める。たんぱく質の過剰摂取は好ましくない。
第2期 (早期腎症)	25~30	1.0~1.2	制限せず	制限せず	
第3期-A (顕性腎症前期)	25~30	0.8~1.0	7~8	制限せず	浮腫の程度、心不全の有無により水分を適宜制限する。
第3期-B (顕性腎症後期)	30~35	0.8~1.0	7~8	軽度制限	
第4期 (腎不全期)	30~35	0.6~0.8	5~7	1.5	
第5期 (透析療法期)	維持透析患者の食事療法に準じる。				

「それぞれの指導」

ハートライフ病院：薬局 魚住 達也

H25年5月18日に熊本の糖尿病学会の糖尿病劇場に演技者として参加させていただきました。今回は糖尿病劇場の内容を紹介したいと思います。

糖尿病劇場とは？：医師、看護師など患者さんと直接関わる医療者向けのワークショップで、日常の診療を寸劇で表現し、患者さんがより良い治療を行うためにはどうしたら良いかを考える取り組みです。

劇の内容：患者役の久間門太郎は50歳で2型糖尿病。まだ小さい子供がいるが、糖尿病腎症IV期。このままだと透析をしなくてはならない。外来で治療と指導を受けていたが改善しないため、インスリン導入のため入院となる。医療者から入院中と退院後にいろんな職種の指導を受ける。入院看護師の不知火麗子は人情深い影響されやすい性格。針を恐れる久間門に対し、透析の針はもっと太く痛い事を話し、インスリンを導入してもらおうと試みる。管理栄養士の栗原大牧は肉や魚などのタンパク質を減らし、塩分の多い高菜、カリウムの多いスイカなど、久間門の好物をダメダメと攻撃する。薬剤師役は2人で、後輩薬剤師のきまじめで秀才な北里柴二郎と、



患者さんの事を思いエンパワーメント指導を心掛ける先輩薬剤師の福沢諭一。北里は患者の気持ちは二の次で、自分の持つ知識で的確かつ迅速にインスリンの説明を行う。しかし、インスリン導入を拒否され再度先輩薬剤師の福沢が面談へ。福沢は患者久間門の気持ちを聞き出しインスリン導入を目指



すが上手く行かず結局は透析の針の話を持ち出し脅してしまう。主治医の天草五郎は自身も2型糖尿病であり、多少治療にルーズな面がある。「出来ない事は無理にさせるな」という考えを持つ。外来看護師の荒尾梨子は責任感が強く、患者さんが良くなるのであれば強く指導する事も必要と考える。主治医の天草五郎の考えに疑問を持ち「医療者が全く患者さんと同じ視点でいいのか？」と天草と意見がぶつかる。医療者間でカンファレンスを行いそれぞれの指導について話し合いをする。指導の内容は違うが、いずれも久間門太郎の事を思い一生懸命指導を行っている。しかし、なぜかモヤモヤが残ってしまう状況で劇は終了となる。

会場からの意見：会場からは医療者の指導について直接のコメントや、モバイルd eアンサーを利用して700件近いツイートでの意見をいただきました。「患者である久間門の話をもっと聴いてほしい」「薬の必要性をしっかりと伝えたほうが良い」「薬が飲めていない原因を一緒に考えてほしい」「専門用語ではなく分かりやすい言葉で説明をしたほうが良い」「患者さんも一緒にカンファレンスに参加してもらい意見を聞く」等 患者さんの気持ちを大切にする意見が多く聞かれました。



結語：今回糖尿病劇場に参加し、一部台本も作成させていただきました。台本を考える際、患者さんはどのような気持ちでいるのだろうかと考えながら作成しました。しかし、会場より自分が思いもつかなかった考えや意見が飛び交い、自分自身とても学ぶ事がありました。糖尿病劇場は医療者向けの公演ではありますが、患者さんにも参加できるような劇場を行い、直接考えを聞ける機会が持てれば良いなと思いました。